

介護職員初任者研修カリキュラム

社会福祉法人 金谷温清会

1. 研修科目と研修時間数

No.	科目		細目	時間
① 講 義 ・ 演 習				
1	職務の理解			4
2	介護における尊厳の保持・自立支援			9
3	介護の基本			6
4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携			9
5	介護におけるコミュニケーション技術			6
6	老化の理解			6
7	認知症の理解			6
8	障害の理解			3
9	9-1	基本知識の学習	介護の基本的な考え方	2
	9-2		介護に関するところのしくみの基礎的理解	5
	9-3		介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5
	9-4	生活支援技術の講義・演習	生活と家事	5
	9-5		快適な居住環境整備と介護	3
	9-6		整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5
	9-7		移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	11
	9-8		食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5
	9-9		入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5
	9-10		排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5
	9-11		睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4.5
	9-12		死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	1.5
	9-13		生活支援技術演習	介護過程の基礎的理解
	9-14	総合生活支援技術演習		10
ところとからだのしくみと生活支援技術 計				69
実 習				
10	実習	介護実習	4	8
		訪問介護サービス同行訪問	4	
② 講 義 ・ 演 習				
11	振り返り	振り返り		4
講義・演習 計				122
実習 計				8
研修時間 合計				130

(注) 上記とは別に、筆記試験による修了評価（1時間程度）を実施すること。

2. 介護職員初任者研修における目標、評価の指針

(1) 介護職員初任者研修における到達目標

1	基本的な介護を実践するために最低限必要な知識・技術を理解できる。
2	介護の実践については、正しい知識とアセスメント結果に基づく適切な介護技術の適用が必要であることを理解できる。
3	自立の助長と重度化防止・遅延化のために、介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させるという視点が大切であることを理解できる。
4	利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活を送れるようにするために、利用者一人ひとりに対する生活状況の的確な把握が必要であることを理解できる。
5	他者の生活観及び生活の営み方への共感、相手の立場に立って考えるという姿勢を持つことの大切さについて理解できる。
6	自立支援に資するサービスを多職種と協働して総合的、計画的に提供できる能力を身につけることが、自らの将来の到達目標であることを理解できる。
7	利用者本位のサービスを提供するため、チームアプローチの重要性とその一員として業務に従事する際の役割、責務等を理解できる。
8	利用者、家族、他職種との円滑なコミュニケーションのとり方の基本を理解できる。
9	的確な記録・記述の大切さを理解できる。
10	人権擁護の視点、職業倫理の基本を理解できる。
11	介護に関する社会保障の制度、施策、サービス利用の流れについての概要を理解できる。

(2) 各科目の「到達目標・評価の基準」

(到達目標)	<p>「各科目が、実務においてどのような行動ができる介護職員を養成しようとするのかを定義したものである。介護職員初任者研修修了時点でただちにできることは困難だが、介護職員初任者研修事業者は、研修修了後一定の実務後にこの水準に到達する基礎を形成することを目標に、研修内容を企画する。</p>
修了時の評価ポイント	<p>介護職員初任者研修において実施する受講者の習得状況の評価において、最低限理解・習得すべき事項を定義したものである。</p> <p>介護職員初任者研修事業者は受講生が修了時にこの水準に到達できていることを確認する必要がある。</p> <p>「修了時の評価ポイント」は評価内容に応じて下記のような表記となっている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 知識として知っていることを確認するもの。 知識として知っているレベル。 【表記】 <ul style="list-style-type: none"> ・「列挙できる」(知っているレベル) ・「概説できる」(だいたいのところを説明できるレベル) ・「説明できる」(具体的に説明できるレベル) 筆記試験や口答試験により、知識を確認することが考えられる。 技術の習得を確認するもの。 実技演習で行った程度の技術を習得しているレベル。 【表記】 <ul style="list-style-type: none"> ・「～できる」「実施できる」 演習・実習にて実技を行い確認することが考えられる。

3. 各科目の到達目標、評価、内容

(1) 職務の理解 (4時間)

① 到達目標・評価の基準

ね ら い	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。
-------------	--

② 内容

指 導 の 視 点	<ul style="list-style-type: none">・研修課程全体(130時間)の構成と各研修科目(10科目+実習)相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。・視聴覚教材等を工夫し、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解させる。
内 容	<ol style="list-style-type: none">1. 多様なサービスの理解<ul style="list-style-type: none">○介護保険サービス(居宅、施設)、○介護保険外サービス2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解<ul style="list-style-type: none">○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容○居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ (視聴覚教材の活用、現場職員の体験談等)○ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れと チームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携

(2) 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）

① 到達目標・評価の基準

ねらい	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。
修得ポイントの振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。 ・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。

② 内容

指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基いたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。 ・具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ・利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。 ・虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。
-------	--

内容	<p>1. 人権と尊厳を支える介護</p> <p>(1) 人権と尊厳の保持</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人として尊重、○アドボカシー、○エンパワメントの視点、○「役割」の実感、○尊厳のある暮らし、○利用者のプライバシーの保護 <p>(2) ICF</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護分野におけるICF <p>(3) QOL</p> <ul style="list-style-type: none"> ○QOLの考え方、○生活の質 <p>(4) ノーマライゼーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ノーマライゼーションの考え方 <p>(5) 虐待防止・身体拘束禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身体拘束禁止、○高齢者虐待防止法、○高齢者の養護者支援 <p>(6) 個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業 <p>2. 自立に向けた介護</p> <p>(1) 自立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自立・自律支援、○残存能力の活用、○動機と欲求、○意欲を高める支援、○個別性／個別ケア、○重度化防止 <p>(2) 介護予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護予防の考え方
----	---

(3) 介護の基本 (6時間)

① 到達目標・評価の基準

ねらい	<ul style="list-style-type: none">・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。
修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none">・介護を目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。・生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。・介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。

② 内容

指導の視点	<ul style="list-style-type: none">・可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。・介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人で対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す。
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 介護職の役割、専門性と他職種との連携<ol style="list-style-type: none">(1) 介護環境の特徴の理解<ul style="list-style-type: none">○訪問介護と施設介護サービスの違い、○地域包括ケアの方向性(2) 介護の専門性<ul style="list-style-type: none">○重度化防止・遅延化の視点、○利用者主体の支援姿勢、○自立した生活を支えるための援助、○根拠のある介護、○チームケアの重要性、○事業所内のチーム、○多職種から成るチーム(3) 介護に関わる職種<ul style="list-style-type: none">○異なる専門性を持つ多職種の理解、○介護支援専門員、○サービス提供責任者、○看護師等とチームとなり利用者を支える意味、○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、○チームケアにおける役割分担2. 介護職の職業倫理<ul style="list-style-type: none">○専門職の倫理の意義、○介護の倫理 (介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等)、○介護職としての社会的責任、○プライバシーの保護・尊重3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント<ol style="list-style-type: none">(1) 介護における安全の確保<ul style="list-style-type: none">○事故に結びつく要因を探り対応していく技術、○リスクとハザード(2) 事故予防、安全対策<ul style="list-style-type: none">○リスクマネジメント、○分析の手法と視点、○事故に至った経緯の報告 (家族への報告、市町村への報告等)、○情報の共有(3) 感染対策<ul style="list-style-type: none">○感染の原因と経路 (感染源の排除、感染経路の遮断)、○「感染」に対する正しい知識4. 介護職の安全 介護職の心身の健康管理<ul style="list-style-type: none">○介護職の健康管理が介護の質に影響、○ストレスマネジメント、○腰痛の予防に関する知識、○手洗い・うがいの励行、○手洗いの基本、○感染症対策

(4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）

① 到達目標・評価の基準

ねらい	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。
修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。 ・介護保険制度や障害者自立支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。 <p>例：税が財源の半分であること、利用者負担割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。 ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。 ・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる。

② 内容

指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度・障害者自立支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ・利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者自立支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保険制度 <ol style="list-style-type: none"> (1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 <ul style="list-style-type: none"> ○ケアマネジメント、○予防重視型システムへの転換、○地域包括支援センターの設置、○地域包括ケアシステムの推進 (2) 仕組みの基礎的理解 <ul style="list-style-type: none"> ○保険制度としての基本的仕組み、○介護給付と種類、○予防給付、○要介護認定の手順 (3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 <ul style="list-style-type: none"> ○財政負担、○指定介護サービス事業者の指定 2. 医療との連携とリハビリテーション <ul style="list-style-type: none"> ○医行為と介護、○訪問看護、○施設における看護と介護の役割・連携、○リハビリテーションの理念 3. 障害者自立支援制度およびその他制度 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害者福祉制度の理念 <ul style="list-style-type: none"> ○障害の概念、○ICF（国際生活機能分類） (2) 障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 <ul style="list-style-type: none"> ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (3) 個人の権利を守る制度の概要 <ul style="list-style-type: none"> ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業

(5) 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)

① 到達目標・評価の基準

ねらい	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している。
修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none">・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

② 内容

指導の視点	<ul style="list-style-type: none">・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。・チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。
内容	<p>1. 介護におけるコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割<ul style="list-style-type: none">○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、○傾聴、○共感の応答(2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション<ul style="list-style-type: none">○言語的コミュニケーションの特徴、○非言語コミュニケーションの特徴(3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際<ul style="list-style-type: none">○利用者の思いを把握する、○意欲低下の要因を考える、○利用者の感情に共感する、○家族の心理的理解、○家族へのいたわりと励まし、○信頼関係の形成、○自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、○アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い(4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際<ul style="list-style-type: none">○視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、○失語症に応じたコミュニケーション技術、○構音障害に応じたコミュニケーション技術、○認知症に応じたコミュニケーション技術 <p>2. 介護におけるチームのコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 記録における情報の共有化<ul style="list-style-type: none">○介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、○介護に関する記録の種類、○個別援助計画書(訪問・通所・入所、福祉用具貸与等)、ヒヤリハット報告書、○5W1H(2) 報告<ul style="list-style-type: none">○報告の留意点、○連絡の留意点、○相談の留意点(3) コミュニケーションを促す環境<ul style="list-style-type: none">○会議、○情報共有の場、○役割の認識の場(利用者とは頻回に接触する介護者に求められる観察眼)、○ケアカンファレンスの重要性

(6) 老化の理解 (6時間)

① 到達目標・評価の基準

ねらい	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。
修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。 例：退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等 ・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。 例：脳梗塞の場合、突発的に症状が起こり、急速に意識障害、片麻痺、半側感覚障害等を生じる等

② 内容

指導点の視	高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。
内容	<p>1. 老化に伴うこころとからだの変化と日常</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ○防衛反応（反射）の変化、○喪失体験 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 <ul style="list-style-type: none"> ○身体的機能の変化と日常生活への影響、○咀嚼機能の低下、○筋・骨・関節の変化、○体温維持機能の変化、○精神的機能の変化と日常生活への影響 <p>2. 高齢者と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ○骨折、○筋力の低下と動き・姿勢の変化、○関節痛 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ○循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）、○循環器障害の危険因子と対策、○老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症）、○誤嚥性肺炎、○病状の小さな変化に気付く視点、○高齢者は感染症にかかりやすい

(7) 認知症の理解 (6時間)

① 到達目標・評価の基準

ねらい	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。
修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none">・ 認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。・ 健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。・ 認知症の中核症状と行動・心理症状 (B P S D) 等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。・ 認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。・ 認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。・ 認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。 <p>例：生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らんの場の確保等、地域を含めて生活環境とすること</p> <ul style="list-style-type: none">・ 認知症の利用者とのコミュニケーション (言語、非言語) の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方 (良い関わり方、悪い関わり方) を概説できる。・ 家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる。

② 内容

指導点の視	<ul style="list-style-type: none">・ 認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。・ 複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 認知症を取り巻く状況 認知症ケアの理念 ○パーソンセンタードケア、○認知症ケアの視点 (できることに着目する)2. 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ○認知症の定義、○もの忘れとの違い、○せん妄の症状、○健康管理 (脱水・便秘・低栄養、低運動の防止、口腔ケア)、○治療、○薬物療法、○認知症に使用される薬3. 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 (1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ○認知症の中核症状、○認知症の行動・心理症状 (B P S D)、○不適切なケア、○生活環境で改善 (2) 認知症の利用者への対応 ○本人の気持ちを推察する、○プライドを傷つけない、○相手の世界に合わせる、○失敗しないような状況をつくる、○すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、○身体を通じたコミュニケーション、○相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、○認知症の進行に合わせたケア4. 家族への支援 ○認知症の受容過程での援助、○介護負担の軽減 (レスパイトケア)

(8) 障害の理解 (3時間)

① 到達目標・評価の基準

ねらい	障害の概念と I C F、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。
評価ポイント の ト	・ 障害の概念と I C F について概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について 列挙できる。 ・ 障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

② 内容

指導 の 視 点	・ 介護において障害の概念と I C F を理解しておくことの必要性の理解を促す。 ・ 高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。
内 容	1. 障害の基礎的理解 (1) 障害の概念と I C F ○ I C F の分類と医学的分類、○ I C F の考え方 (2) 障害者福祉の基本理念 ○ ノーマライゼーションの概念 2. 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 (1) 身体障害 ○ 視覚障害、○ 聴覚、平衡障害、○ 音声・言語・咀嚼障害、○ 肢体不自由、○ 内部障害 (2) 知的障害 ○ 知的障害 (3) 精神障害 (高次脳機能障害、発達障害を含む) ○ 統合失調症・気分 (感情障害) ・依存症などの精神疾患、○ 高次脳機能障害、 ○ 広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (4) その他の心身の機能障害 3. 家族の心理、かかわり支援の理解 家族への支援 ○ 障害の理解・障害の受容支援、○ 介護負担の軽減

(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 (6 7時間)

<展開>

基本知識の学習の後に、生活支援技術等の学習を行い、最後に事例に基づく総合的な演習を行う。概ね次のような展開で行う。

基本知識の学習… 1 2時間

- 「1. 介護の基本的な考え方」… 2時間
- 「2. 介護に関するこころのしくみの基礎的理解」… 5時間
- 「3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解」… 5時間

生活支援技術の講義・演習… 4 4時間

- 「4. 生活と家事」… 5時間
- 「5. 快適な居住環境整備と介護」… 3時間
- 「6. 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護」… 5時間
- 「7. 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護」… 1 1時間
- 「8. 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護」… 5時間
- 「9. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護」… 5時間
- 「10. 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護」… 5時間
- 「11. 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護」… 4. 5時間
- 「12. 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護」… 1. 5時間

生活支援技術演習… 1 1時間

- 「13. 介護過程の基礎的理解」… 2時間
- 「14. 総合生活支援技術演習」… 1 0時間

① 到達目標・評価の基準

ね ら い	<ul style="list-style-type: none">・ 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。・ 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。
-------------	---

修了時の評価ポイント

- ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。
- ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。
- ・利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。
- ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。
- ・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。
- ・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。
- ・装うことや整容の意義について解説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。
- ・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。

② 内容

指導の指針

- ・介護実践に必要なところとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。
- ・サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。
- ・例えば「食事の介護技術」は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事を提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。
- ・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。

< I. 基本知識の学習…12時間 >

1. 介護の基本的な考え方

- 理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）、
- 法的根拠に基づく介護

2. 介護に関するこころのしくみの基礎的理解

- 学習と記憶の基礎知識、○感情と意欲の基礎知識、○自己概念と生きがい、
- 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、○こころの持ち方が行動に与える影響、○からだの状態がこころに与える影響

3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解

- 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、○骨・関節・筋に関する基礎知識、
- ボディメカニクスの活用、○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、
- 自律神経と内部器官に関する基礎知識、○こころとからだを一体的に捉える、
- 利用者の様子の普段との違いに気づく視点

< II. 生活支援技術の学習…44時間 >

4. 生活と家事

家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援

- 生活歴、○自立支援、○予防的な対応、○主体性・能動性を引き出す、
- 多様な生活習慣、○価値観

5. 快適な居住環境整備と介護

快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法

- 家庭内に多い事故、○バリアフリー、○住宅改修、○福祉用具貸与

6. 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

整容に関する基礎知識、整容の支援技術

- 身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、○身じたく、○整容行動、
- 洗面の意義・効果

7. 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援、○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、○利用者の自然な動きの活用、○残存能力の活用・自立支援、○重心・重力の働きの理解、○ボディメカニクスの基本原理、○移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）、○移動介助（車いす・歩行器・つえ等）、○褥瘡予防

8. 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援

○食事をする意味、○食事のケアに対する介護者の意識、○低栄養の弊害、○脱水の弊害、○食事と姿勢、○咀嚼・嚥下のメカニズム、○空腹感、○満腹感、○好み、○食事の環境整備（時間・場所等）、○食事に関連した福祉用具の活用と介助方法、○口腔ケアの定義、○誤嚥性肺炎の予防

9. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法

○羞恥心や遠慮への配慮、○体調の確認、○全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）、○目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、○陰部清浄（臥床状態での方法）、○足浴・手浴・洗髪

10. 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護

排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法

○排泄とは、○身体面（生理面）での意味、○心理面での意味、○社会的な意味、○プライド・羞恥心、○プライバシーの確保、○おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害、○排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、○排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、○一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、○便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ）

11. 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護

睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法

○安眠のための介護の工夫、○環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）、○安楽な姿勢・褥瘡予防

12. 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護

終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への課程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援

○終末期ケアとは、○高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）、○臨終が近づいたときの兆候と介護、○介護従事者の基本的態度、○多職種間の情報共有の必要性

※「Ⅱ. 生活支援技術の学習」においては、総時間の概ね5～6割を技術演習にあてることとし、その他の時間は、個々の技術に関連したところとからだのしくみ等の根拠の学習及び技術についての講義等に充てること。

<Ⅲ. 生活支援技術演習…11時間>

13. 介護過程の基礎的理解

○介護過程の目的・意義・展開、○介護過程とチームアプローチ

14. 総合生活支援技術演習

（事例による展開）

生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。

○事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（1事例1.5時間程度で上のサイクルを実施する）

○事例は高齢（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実施

※本科目の6～11の内容においても、「14. 総合生活支援技術演習」で選択する高齢の2事例と同じ事例を共通して用い、その支援技術を適用する考え方の理解と技術の習得を促すことが望ましい。

※本科目の6～11の内容における各技術の演習及び「14. 総合生活支援技術演習」においては、一連の演習を通して受講者の技術度合いの評価（介護技術を適用する各手順のチェックリスト形式による確認等）を行うことが望ましい。

(10) 実習 (計12時間:【介護実習】4時間以上、【訪問介護サービス同行訪問】4時間以上)

① 到達目標・評価の基準

ねらい	<p>【介護実習】</p> <p>講義・演習の内容を施設サービスの各入所又は通所施設において経験し、基礎的な生活支援技術の習得を図る。</p> <p>【訪問介護サービス同行訪問】</p> <p>訪問介護サービスに同行し、基礎的な生活支援技術の習得を図る。</p>
修了時の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備について経験し、気づくことができる。 ・家事援助の機能と基本原則について訪問介護サービス同行訪問を行う中で気づくことができる。 ・装うことや整容について、指示や根拠に基づいて経験し、理解できる。 ・体位変換と移動・移乗について、指示に基づいて経験し、理解できる。 ・食事と食事を取り巻く環境整備について、指示に基づいて経験し、理解できる。 ・入浴や清潔保持と入浴を取り巻く環境整備について、指示に基づいて経験し、理解できる。 ・排泄と排泄を取り巻く環境整備について、指示に基づいて経験し、理解できる。 ・睡眠と睡眠を取り巻く環境整備について、指示に基づいて経験し、理解できる。

② 内容

指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職の仕事内容や働く現場について、具体的なイメージが持てるよう促す。 ・在宅、施設の何れの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における実習(身だしなみ、言葉遣い、応対の態度等の礼節を含む。)を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。 ・受講者が講義・演習で学んだこと・理解したことをふまえ、自主的に気づき、振り返りながら実習に臨むことができるよう促す。
内容	<p>1. 介護実習</p> <p>入所施設・事業所又は通所施設・事業所への介護実習</p> <p>2. 訪問介護サービス同行訪問</p> <p>居宅サービス等との同行訪問による業務実習</p>

(11) 振り返り (2時間)

① 到達目標・評価の基準

ねらい	・研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。
-----	---

② 内容

指導の視点	<ul style="list-style-type: none">・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させたうえで、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。・修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。・最新知識の付与と、次のステップ（職場環境への早期適応等）へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。・介護職の仕事内容や働く現場、事業所等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫、活用が望ましい。（視聴覚教材、現場職員の体験談等）
内容	<p>1. 振り返り</p> <p>○研修を通して学んだこと、○今後継続して学ぶべきこと</p> <p>○根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）</p> <p>2. 就業への備えと研修修了後における継続的な研修</p> <p>○継続的に学ぶべきこと、○研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例（Off-JT、OJT）を紹介</p>

介護職員初任者研修内容

日程	時間	時間・項目	内容	講師	講義内容及び演習の実施方法
8/3	8:30～9:00		開講式		
	9:10～11:20	2H 1-1	多様なサービスの理解	脇坂和弘	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護保険サービス（在宅・施設）とそれ以外（障害者（児）サービス等）について理解する。
	12:20～14:30	2H 1-2	介護職の仕事内容や働く現場の理解	脇坂和弘	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅・施設の多様な働く現場における仕事内容や実際のサービス提供現場の具体的なイメージができるよう、視聴覚教材・法人内見学を行い、理解する。 ・ケアプランの位置づけに始まるサービス提供に至るまでの一連の流れとチームアプローチ・他職種・地域の社会資源との連携を理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討事例を提示し、介護職の仕事内容が具体的にイメージできるよう、グループでの討議を実施し、グループごとの発表後講師が講評する。
14:40～16:20	1.5H 2-1	人権と尊厳を支える介護	脇坂和弘	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者とはどのような人々なのか、具体的事例を示し対象を理解する。 ・個人としての尊重や利用者のプライバシー保護などを通して尊厳の保持を学び、それを支えるためのケアを理解する。 ・ICFの目的や介護分野におけるICFの考え方を具体的事例で理解する。 ・ノーマライゼーションの意味を学び、それを実現するための支援を理解する。 ・虐待の定義や身体拘束禁止について事例などを通して学び、介護員としての基本的視点を理解する。また制度としての高齢者虐待防止法や地域ネットワークの必要性を理解する。 ・尊厳の保持に関連した、個人情報保護法、青年後見制度や日常生活自立支援事業など、介護保険制度上の仕組みや規定を理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・尊厳を支えることの意義や対応が具体的にイメージできるようグループでの討議を行い、介護員としての役割を深める。発表後、講師が講評する。 	

日程	時間	時間・項目	内容	講師	講義内容及び演習の実施方法
8/10	8:30~10:10	1.5H 3-1	介護職の役割、専門性と多職種との連携	川名正人	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 施設と居宅の介護環境の特性を理解し、地域包括ケアシステムの役割と機能を理解する。 利用者の重度化・遅延化を予防するための具体的事例を通して予防的介護や、自立した生活を支えるための援助を学習し、介護の専門性について理解する。 介護支援専門員やサービス提供責任者、看護師など他職種を理解し、利用者を支えるチームケアについて学習を深め、お互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供を理解する。
	10:20~12:00	1.5H 3-2	介護職の職業倫理	川名正人	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 専門職としての倫理の意義や介護の倫理を学習し職業倫理について理解する。 プライバシー保護など利用者・家族に対する責任を学び、地域社会における介護職の役割を理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者への対応場面など具体的事例を通して介護の仕事は、知識・技術だけではなく高い倫理性が必要であることをグループで検討し、発表後講師が講評する。
	13:00~16:20	3H 4-1	介護保険制度	千葉智史	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 介護の社会化がなぜ必要だったのか、介護保険制度の位置づけを学習し、各サービスの役割を理解する。 予防重視型システムの転換、地域包括支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進といった介護保険制度の新しい方向性を理解する。 保険者、被保険者、保険給付などの介護保険制度の基本的な仕組みを理解する。 介護給付の種類ならびに予防給付の種類を理解する。 認定の申請から、認定調査、審査判定、結果通知にいたる手続きを理解する。 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割について理解する。

日程	時間	時間・項目	内容	講師	講義内容及び演習の実施方法
8/17	8:30~11:50	3H 2-1	人権と尊厳を支える介護	脇坂和弘	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者とはどのような人々なのか、具体的事例を示し対象を理解する。 ・個人としての尊重や利用者のプライバシー保護などを通して尊厳の保持を学び、それを支えるためのケアを理解する。 ・ICFの目的や介護分野におけるICFの考え方を具体的事例で理解する。 ・ノーマライゼーションの意味を学び、それを実現するための支援を理解する。 ・虐待の定義や身体拘束禁止について事例などを通して学び、介護員としての基本的視点を理解する。また制度としての高齢者虐待防止法や地域ネットワークの必要性を理解する。 ・尊厳の保持に関連した、個人情報保護法、青年後見制度や日常生活自立支援事業など、介護保険制度上の仕組みや規程を理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・尊厳を支えることの意義や対魚が具体的にイメージできるようグループでの討議を行い、介護員としての役割を深める。発表後、講師が講評する。
	13:00~16:50	3.5H 2-2	自立に向けた介護	脇坂和弘	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自立」や「自律」の意味を学び、介護保険法の基本理念である自立支援について理解する。 ・残存機能を効果的に活用するための具体的事例を示し、自立支援の重要性や意義などについて理解する。 ・人間における動機と欲求または個別性や個別ケアの意味を理解し、意欲を高める支援を理解する。 ・介護予防の考え方を学び、生活不活発病の予防について理解する。

日程	時間	時間・項目	内容	講師	講義内容及び演習の実施方法
8/24	8:30~11:50	3H 6-1	老化に伴うこころとからだの変化と日常	佐藤健太郎	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴を防衛反応（反射）の変化や喪失体験を具体的事例を通して、理解する。 ・老年期に伴う咀嚼と嚥下機能の低下（消化機能）や体温維持機能の低下、精神的変化を理解し、日常生活への影響を理解する。 ・疑似体験（疑似体験セットのめがね・手袋をした状態でお金を出してもらう）
	13:00~16:20	3H 6-2	高齢者の健康	石村香織	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の身体的・精神的機能の変化と病気との関連、日常生活への影響について学習し、生活上の留意点を理解する。 ・循環器障害・老年期うつ病症状・誤嚥性肺炎・感染症などの疾患による症状や訴えについて理解し対応を理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・症状がどのような病気から起こるのか具体的事例を通し、日常生活の留意点や対応を討議し、発表する。
8/31	8:30~11:50	3H 4-2	医療との連携とリハビリテーション	佐伯考一	<ul style="list-style-type: none"> ・医療行為と介護行為について理解する。 ・リハビリテーションの意味と理念、目的について学習に、具体的事例を通してその分類・過程を理解する。
	13:00~16:20	3H 9-5	快適な居住環境整備と介護	佐伯考一	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・住居のあり方を通して、個人のプライバシーや地域との交流などを学習し、障害者や高齢者にとって快適な環境の維持と安全について理解する。 ・福祉用具に関する留意点と支援方法について理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・住居の中での、入浴と空間・歩行、移動と空間などの問題点をグループで検討。また、環境整備例を示すなど、具体的に高齢者・障害者特有の快適な居住環境がイメージできる。

日程	時間	時間・項目	内容	講師	講義内容及び演習の実施方法
9/7	8:30~10:10	1.5H 3-3	介護における安全の確保 とリスクマネジメント	川名正人	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントの考え方を学習し、リスク分析の方法や視点を理解する。 ・介護現場における事故の要因を探り、リスク対応の具体的実践例を示し、安全管理体制の重要性を理解する。 ・事故発生時の対応と報告の仕方を学習し、情報共有の大切さを理解する。 ・感染の原因と経路、感染症対策などについて理解する。
	10:20~12:00	1.5H 3-4	介護職の安全	川名正人	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の健康管理が介護の質に影響することを学習し、介護職におこりやすい健康障害とその予防について具体的事例を示し理解する。 ・手洗い、うがいの重要性や手洗いの基本の実技演習などで理解する。 (感染症の基礎知識パワーポイント使用して説明) ・ストレスマネジメントについて学習する。
	13:00~16:20	3H 4-3	障害者自立支援制度及び その他制度	千葉智史	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉制度の流れ、障害者福祉サービスの再編など制度の理念を理解する。 ・障害者自立支援法の目的、概要を理解する。 ・介護給付、訓練等給付の申請から支給決定までを理解する。 ・個人情報保護と活用のルールについて具体的事例を通して理解する。 ・法定後見・任意後見などの成年後見制度を理解する。 ・判断能力が不十分な人の生活を支援する日常生活自立支援事業について理解する。

日程	時間	時間・項目	内容	講師	講義内容及び演習の実施方法
9/14	8:30~10:10	1.5H 7-1	認知症を取り巻く状況	千葉智史	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーソンセンタードケアの考え方などを学習し、認知症ケアの基本を理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症利用者の行動が理解できるよう、事例を通してグループで話し合い、認知症ケアの視点を理解する。
	8:30~10:10	1.5H 7-2	医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	石村香織	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の定義や症状を学習し、認知症の代表的な原因疾患とその病態生理とケアのポイントを理解する。 ・脱水、便秘、低栄養、低運動の防止などを学習し、健康管理の重要性を理解する。 ・認知症の代表的な原因疾患に対する治療や対応について理解する。
	14:40~17:00	1.5H 7-3	認知症に伴うことと身体の変化と日常生活	千葉智史	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題とみなされがちな行動や心理症状は認知症という病気に伴うことを学習し、適切なケアとは何かを理解する。 ・認知症の利用者の生活環境の意義や生活改善の重要性を理解する。 ・認知症の人の言葉や表情、しぐさから中核症状の及ぼす影響を学習し、それを踏まえた日常生活の具体的な対応や留意点を具体的な事例で理解する。
	13:30~15:10	1.5H 7-4	家族への支援	千葉智史	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の介護の受容過程を理解し、支援のあり方を理解する。 ・家族介護者が経験しているストレスを学習し、ストレスケアと家族介護者の介護負担を軽減するための社会サービスの活用など具体的な事例を示し理解する。

日程	時間	時間・項目	内容	講師	講義内容及び演習の実施方法
9/21	8:30~11:50	3H 5-1	介護におけるコミュニケーション	角田清美	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護チームにおけるコミュニケーションの目的と意義・役割について理解する。 ・円滑なコミュニケーションのための共感と受容など利用者理解について理解する。 ・言語的・非言語的コミュニケーションを理解する。 ・利用者、家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助の重要性を理解する。 ・さまざまな障害者、失語症、構音障害、認知症の人とのコミュニケーションの方法と留意点について理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的事例を示し、シュミレーションやロールプレイなどの実技演習でコミュニケーションスキルの理解をする。
	13:00~16:20	3H 5-2	介護におけるチームのコミュニケーション	角田清美	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護チームにおけるコミュニケーションの有効性、重要性について理解する。 ・介護実践においてなぜ記録が必要か、その目的と意義を理解する。利用者の状態を踏まえた観察と記録の重要性と記録の種類を理解する。 ・報告、連絡、相談の必要性や留意点を理解する。 ・情報の共有化は重要であり、会議など具体的方法の場面を通して理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的事例を示し、情報の共有化の重要性や記録の重要性を理解する。 ・具体的事例やロールプレイなどを通して、報告・連絡・相談について習得する。

日程	時間	時間・項目	内容	講師	講義内容及び演習の実施方法
9/28	8:30~9:30	1H 8-1	障害の基礎的理解	石村香織	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念とICFの考え方を理解する。 ・障害者福祉の基本理念であるノーマライゼーションの概念を理解する。
	9:40~10:40	1H 8-2	障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	石村香織	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害や聴覚、平衡障害、肢体不自由、知的障害者など代表的疾患を理解し、障害などが人の心理や行動、日常生活に及ぼす影響や社会支援の留意点を学習する。病名だけで偏見をもたず、受容的・支持的に接すること、一人の生活者として関わることの重要性を理解する。
	10:50~11:50	1H 8-3	家族の心理、関わり支援	千葉智史	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の理解や障害の受容支援のあり方について理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的事例を示し、小グループでの検討を通じて、家族の抱えるストレスを学習し、家族をサポートする支援を理解する。
	13:00~15:10	2H 9-1	介護の基本的な考え方	佐藤健太郎	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士の定義を学習し、理論に基づく介護の重要性を認識し、ICFの視点に基づく生活支援と根拠に基づく介護について具体的事例を示し理解する。
10/5	8:30~11:50	3H 9-2	介護に関するこころのしくみの基本的理解	福原賢一	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験やトレーニングなどによって出来るようになることや記憶のメカニズムなど学習と記憶の基礎知識を理解する。 ・様々な感情と意欲の基礎知識を深め、高齢者の生き方や生活の様子がイメージできる。 ・自己概念や生きがいなどについて知識を深め、高齢者の生き方や生活の様子がイメージできる。 ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因を学習し、こころの持ち方やからだの状態がこころに与える影響を理解する。
	13:00~15:15	2H 9-2			

日程	時間	時間・項目	内容	講師	講義内容及び演習の実施方法
10/12	8:30~11:50	3H 9-3	介護に関するからだのしくみの基礎的理解	佐藤健太郎	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の専門職として必要な人体各部の名称、人体の骨格・関節・筋の働きを理解する。 ・人体の骨格、関節、筋に関する基本知識を学習し、身体の動きの基本動作を実技演習し、ボディメカニズムを踏まえた介護への活用方法を習得する。 ・中枢神経、体性神経、自立神経系の働きを理解する。 ・こころとからだの特性を理解し、健康チェックの意義やバイタルサインの観察ポイントを学習し、こころとからだを一体的にとらえる重要性について理解する。
	13:00~15:15	2H 9-3			
10/19	8:30~11:50	3H 9-4	生活と家事	角田清美	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活における家事援助の必要性を理解し、利用者が望む衣食住の生活支援について習得する。 ・家事援助は、利用者の自立とQOLの向上に向けた援助であることを理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要介護度に応じた在宅・施設などそれぞれの場面における生活の具体的家事援助について事例に基づくグループでの討議を実施し、生活支援を理解する。
	13:00~15:15	2H 9-4			
10/27	8:30~11:50	3H 9-6	整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	渡邊良美 岩原慶民	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗顔、口腔ケア、整髪、髭剃り、爪切りなどの支援技術のポイントと手順を理解する。 ・衣類の着脱の意義を学び、安全で心地よい衣服の着脱介助の実際を理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・右片麻痺の場合や寝たままの状態などの事例を示し、衣服の着脱などロールプレイや実技演習を通して実際に習得する。 ・洗顔や爪切りなどの整容の支援技術など実技演習を通じて、介護技術を習得する。
	13:00~15:15	2H 9-6			

日程	時間	時間・項目	内容	講師	講義内容及び演習の実施方法
11/3	8:30~10:40	2H 9-8	食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	高山幸代 丸智子	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事をする意味や、食事の支援に対する介護職の意識など基礎知識を学習し、低栄養やからだのしくみを理解する。 ・食事形態などをふまえて安全・安楽に食事支援する根拠を理解する。 ・食事の福祉用具の特徴と誤嚥させない介護のポイントを理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に様々な飲食物を使用しての実技演習を通じて摂食・嚥下のメカニズムを習得し、食事の介護支援技術を習得する。 ・快適な食事環境の重要性を理解し安全・安楽で、食べる楽しさと意欲を引き出す支援方法をグループで検討し理解する。
	11:45~15:10	3H 9-8			
11/10	8:30~11:50	3H 9-7	移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	福原賢一 平野加代子	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活と移動の動作への理解と移動の介助に必要な基本となる知識を学び、利用者の自立にむけた支援を理解する。 ・移動・移乗介助の具体的介護事例を通じて理解し、ボディメカニクスの原理をおさえた安全で安楽な技術を習得する。 ・様々な移動・移乗に関する用具（車椅子や杖など）の特徴とその活用方法について習得する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・麻痺などの障害のある人のベッドからの移乗や、車椅子や杖を利用した移動など具体的事例場面からの実技演習を通じて技術を習得する。 ・疑似体験セットを使用し、片麻痺の階段昇降等を体験する。
	13:00~16:20	3H 9-7			
11/17	8:30~11:50	3H 9-7	移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	福原賢一 平野加代子	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活と移動の動作への理解と移動の介助に必要な基本となる知識を学び、利用者の自立にむけた支援を理解する。 ・移動・移乗介助の具体的介護事例を通じて理解し、ボディメカニクスの原理をおさえた安全で安楽な技術を習得する。 ・様々な移動・移乗に関する用具（車椅子や杖など）の特徴とその活用方法について習得する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・麻痺などの障害のある人のベッドからの移乗や、車椅子や杖を利用した移動など具体的事例場面からの実技演習を通じて技術を習得する。 ・疑似体験セットを使用し、片麻痺の階段昇降等を体験する。
	13:00~15:15	2H 9-7			
11/24	8:30~11:50	3H 9-9	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	岩原慶民 渡邊良美	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴の意義と効果について学習し、体調の確認や入浴のリスクなど清潔保持に関連した基礎知識を理解する。 ・福祉用具を活用した入浴介助の仕方や、安全で心地よい入浴介助の基本的な留意点などを理解し、さまざまな清潔援助技術を習得する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境整備の確認をし、全身清拭・全身浴・半身浴・洗髪など使用物品の準備や使用方法など実技演習を通じて、手順を習得する。 ・手浴、足浴などの実技演習を通じて、手順を習得し、清潔保持についての知識・技術を習得する。
	13:00~15:15	2H 9-9			

日程	時間	時間・項目	内容	講師	講義内容及び演習の実施方法
12/1	8:30~11:50	3H 9-10	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	平野加代子 千葉智史	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄の意義と目的を理解し、排泄のアセスメントを踏まえ安全で快適な排泄介助の実際を理解する。 ・排泄障害が日常生活に及ぼす影響を学習し、予防方法などを理解する。 ・排泄環境整備と排泄用具の特徴や活用方法を学び、排泄行動が自立できるための観察や介護方法を習得する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポータブルトイレや尿器を使用しての実技演習を通じて、排泄援助技術を習得する。 ・オムツ交換などの実技演習を通じて、手順や介護ポイントを習得する。
	13:00~15:15	2H 9-10			
12/8	8:30~11:50	3H 9-11	睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	池田佐知子 渡邊良美	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠のリズムや意義を学び、睡眠を阻害するところと体の要因を理解する。 ・安眠の留意点や介護の工夫を事例を通して学習し、具体的援助技術を理解する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境整備や寝具・寝衣などを考慮した支援方法の実技演習で安眠のための介護技術を習得する。 ・ベッドメイキングの実際を通して、安楽な姿勢や褥瘡予防を習得する。
	13:00~14:40	1.5H 9-11			
	14:45~17:00	2H 9-13	介護過程の基礎的理解	角田清美	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の目的・意義を学習する。 ・介護過程の一連の展開を通して、介護過程の重要性を理解する。 ・介護過程のチームアプローチの重要性について理解する。

日程	時間	時間・項目	内容	講師	講義内容及び演習の実施方法
12/15	8:30~10:10	1.5H 9-12	死にゆく人に関連したところからだのしくみと終末期介護	池田佐知子	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期のとらえ方と終末期介護の基本を学習し、終末期にある人の心理の理解と苦痛の少ない死への支援を理解する。 ・終末期にある人や家族への支援を通して、介護従事者の基本的態度を学習する。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期介護の事例を示し、精神的・身体的苦痛の軽減や、介護職の役割や他の職種との連携をグループワークなど通して理解する。
	10:15~12:30	2H 9-14	総合生活支援技術演習	池田佐知子 鳥海夕子	<p><事例による展開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳梗塞、右麻痺の方の適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題 ・認知症の方の適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題 <p>グループ毎に手順を作成し、実技演習を通しての意見交換で適切な支援技術の共有を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護技術のまとめとして、一連の動作確認を行う。
	13:30~16:50	3H 9-14			
12/22	8:30~10:40	2H 9-14	総合生活支援技術演習	池田佐知子 鳥海夕子	
	11:45~15:10	3H 9-14			
1/11	8:30~9:30	1 2-2	自立に向けた介護		
	9:40~11:50	2H 10-1	振り返り	脇坂和弘	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を通じて学んだことの意見交換や接遇など業務における基本的態度について再確認し学習を深める。 ・根拠に基づく介護についての要点など各科目の基本的事項の内容をテキストにそって事前学習し、再確認を図る。 <p><演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後継続して学ぶべきことについて意見交換や全体会議を通して振り返りをし、発表後講師が好評する。
	13:00~14:00	1	終了試験		

日程	時間	時間・項目	内容	講師	講義内容及び演習の実施方法
1/11	14:10~16:20	2H 10-2	就業への備えと研修終了後における継続的な研修	脇坂和弘	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職という仕事の状況や介護資格制度を学習し、継続学習の意義を理解する。
12/23~1/15	実習・見学	特別養護老人ホーム金谷の里			<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の機能や特徴を理解する。 ・担当職員の指導の下、利用者とのコミュニケーションのとり方や介護に必要な基本的知識・技術等を実習を通して介護の実際を理解する。
		ホームヘルプサービスセンター金谷の里			
1/18			不合格者レポート提出期限・判定	池田佐知子	
1/25	9:00~11:00		閉講式		